

印旛普及だより

第 37 号

〒285-0026 佐倉市鍋木仲田町8-1 TEL：043-483-1124 FAX：043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行：印旛農業事務所改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会



フロアディスカッションの様子

印旛管内では、将来に向けた水田営農のあり方について話し合いを進める地域が増えていきます。

水田営農の問題をみんな考えてよう！ 『印旛農林業フォーラムを開催』

そこで、12月5日、栄町ふれあいプラザを会場に、「集落の将来、農地と人、水田営農の問題をみんな考えてよう」をテーマにフォーラムを開催しました。当日は、農業者や関係機関等、約160名の参加がありました。

「地域でどのように話し合いを進めていけばよいか」、「地域で水田営農を存続させる仕組みをどう作ればよいか」等情報交換をしました。

「地域のみならず、楽しく、持続できる営農の仕組み作りを」

農事組合法人サンファーム法養寺の上田栄一代表理事による講演と、農事組合法人新治営農組合の三枝義男代表理事の事例発表から、「若い人が魅力を感じる農業で後継者をつかむ必要がある」、「経営を安定させるには生産品目を増やすことが重

要」と経験に基づいたアドバイスを聞きました。

その後「持続可能な水田営農の仕組みを考えよう」をテーマにフロアディスカッションを行いました。

参加者からは、「組織を立ち上げる時のポイントが参考になった」、「生産品目を増やして経営を安定させたい」等、今後の持続的な水田営農を目指した意見が出されました。

担い手が高齢化する中、水田営農を維持・発展させていくためには、若い担い手の確保と地域に合った複合経営の導入による収益性の向上が不可欠です。印旛農業事務所では、それぞれの地域が目指す水田営農の形を創ることができるよう、関係機関と連携しながら支援していきます。

◆特集◆

水田営農に役立つ

「スマート農業」の紹介

スマート農業とは、ロボット技術、ICT（情報通信技術）を活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業です。規模拡大等による競争力強化や労働力不足へ対応するための省力化や生産性向上を図ることができ、近年、様々な技術が開発されています。

当事務所が、10月30日に佐倉市で開催した研修会の内容から、水田営農の労働負担軽減や作業の効率化のための、ICTやその活用方法等を紹介します。

(1) 端末を活用したほ場管理システム

スマートフォンやタブレット・パソコンを使いほ場管理を行います。航空写真を使った農

場地図の作成ができ、ほ場毎の農作業の予定などが表示できます。そのため、ほ場の間違いが防止でき、作業内容を正確に伝えることができます。また、作業の記録をスマートフォンなどから入力できるほか、作業者の移動を自動記録でき、そのデータは作業者同士で共有できます。さらに、農薬や肥料の使用記録もできトレーサビリティが実現できます。

(2) ドローンによる水稲・大豆低農薬栽培

ドローンを使い、生育中の作物を画像解析して、特定の害虫を検知し、農薬の散布を行います。早期に害虫を発見し、ピンポイントで農薬を散布することができますため、省力化と農薬の使用量の削減ができます。

(3) 水田センサーによる田んぼの水管理

規模拡大により、水田が分散していると、効率的な作業がで

きません。そこで、水田センサーを設置し、ほ場毎に、水位・水温を定期的に計測します。計測データは、スマートフォン等で確認できます。無線通信技術や自動給水弁と組み合わせると、遠隔からの水管理も可能となり、省力化できます。また、蓄積されたデータは、栽培管理に活用できます。



水田センサー

(4) リモコン式自走草刈機

離れたところからリモコンで操作ができます。人が入りにくい低く狭い場所や、傾斜地の草刈りができ、労働負担が軽減できます。

(5) GPS（全地球測位システム）の位置情報を活用した無人トラクター及び自動運転コンバイン

トラクターを、人が乗車することなく、タブレットから操作できます。有人機と合わせることで、ふたつの作業を一人で同時に行うことができ、作業時間を短縮できます。

自動運転コンバインは、オペレータの搭乗は必要ですが、自動運転で、農作物を効率良く収穫します。誰でも効率的で正確な作業ができます。

これから、スマート農業技術を導入し、経営改善に取り組みたい方は、農業事務所へ御相談ください。



タブレット操作で動く無人トラクター

イチゴの促成栽培において

天敵農薬利用が拡大しています！

イチゴの生育期間を通して、厄介な害虫がハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）です。

防除は天敵農薬である2種類のカブリダニ（ミヤコカブリダニ・チリカブリダニ）を放飼し、ハダニ類を捕食させて抑制することを目的としたものです。

千葉県内のイチゴ産地では、

- ① ハダニ類に薬剤抵抗性が付かない
 - ② 農薬散布にかかる労力を減らせる、との2つの理由から、定植後から収穫期における天敵農薬の使用が定着しています。
- また、育苗期の天敵農薬利用も山武・安房地域で広がり、印旛地域でも29年度から導入が始まっています。暑いさなかの農薬散布回数を減らすことができ、省力化につながります。

天敵農薬を使用する際の注意

点は、次の3点です。

- (1) カブリダニは低温になると動きが鈍くなります

初回放飼は、マルチ張り後に行います。この時期はまだ気温が高く、活発に動きます。全体に拡散するまでには、放飼後10日から14日ほど必要です。

- (2) 天敵に影響のある農薬は残効を考慮し、計画的に使用

アザミウマ類等の防除、殺菌剤の散布をするときは、天敵への残効性を確認して計画的に行います。

- (3) ハダニ類が大量発生した場合

合は殺ダニ剤でリセット
天敵で抑えきれない場合は殺ダニ剤を使用し、改めて天敵を放飼します。

梨ジョイント仕立ては初期の

側枝確保が重要！

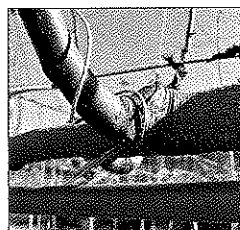
ジョイント仕立ては、神奈川県が開発した新しい果樹の仕立て方です。

主枝を片側一方向に配枝し、前の木の主幹肩部と後ろの木の先端部を接ぎ木することで、複数の木を連続した直線状の樹形に仕立てます。大苗を定植後即時に骨格枝が完成するため、早期成園化に繋がるとともに、単純な樹形であるため管理作業が簡単になります。

印旛管内では、ここ数年導入者が増加傾向にあります。初期の側枝の更新が難しいという声も一部で聞かれます。ジョイント仕立てでは、定植後数年で側枝が揃い、収穫を始めるため、早い時期に側枝の更新サイクルを作ることが重要となります。主枝上の枝の少ない箇所は、次

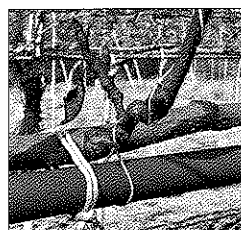
のような処理をして、枝の発生場所を積極的に確保するようにしましょう。

- ① 定芽での切り返し



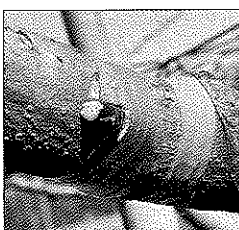
定芽から発生した枝。確実に芽のある位置で切り返す。

- ② 短果枝の摘蕾



短果枝から育成した枝。芽の整理後、摘蕾した。

- ③ 接ぎ木



芽の発生場所がない位置には接ぎ木する。

新しい指導農業士が 認証されました

平成30年度千葉県農業士等認証式典が11月13日に千葉市で開催され、当農業事務所管内では2名が新たに認証されました。

〔指導農業士〕

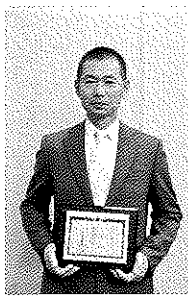
島田 満 氏 (富里市)



露地 + 施設野菜 経営。
スイカ、

ニンジン及びミニトマトを生産し、優れた栽培技術により、安定経営を実践しています。

杉田 勉 氏 (栄町)



水稲専 作経営。
環境に配慮した米

作りに長年取組んでおり、地区のまとめ役として農地利用集積に貢献しています。

農業経営者を目指す方へ 印旛農業経営体育成セミナーに参加しませんか

農業事務所では、農業経営体育成セミナーを開催しています。当セミナーは就農して間もない若手農業者を対象とした、3年間の研修カリキュラムです。

農業経営に必要な知識、技術、課題解決方法、経営計画の策定方法などを習得するとともに、セミナーを通じての仲間作りを目的としています。研修終了時には認定農業者の経営改善計画を自力で策定できるような力身に付けることが目標です。

本年度は基本研修(1年目) 19名、専門研修(2年目) 16名、総合研修(3年目) 19名の計54名が参加しています。

1年目は、生産技術に関する基礎知識の習得と、地域農業を知ることの主な目的として研修を行っています。

2年目は、研修生が自ら設定

した課題を解決するプロジェクト学習を中心とした実践的な研修を行っています。

3年目は、経営者の視点で営農計画を作成し、経営の将来をデザインする力を養うための研修を行っています。

いずれの研修でも、研修生同士の意見交換など積極的に参加できる内容にしています。

次年度の新基本研修生は4月頃から募集します。



合同での視察研修の様子

農地の出し手を 募集中です!

〔農地中間管理事業〕

担い手に貸し付ける農地を探しています。貸し付けたい農地がある場合は、お問い合わせください。新たな農地の貸借制度により、(公社)千葉県園芸協会が農地の貸し借りをを行います。

詳細は千葉県印旛農業事務所企画振興課(電話043-483-1129)または、(公社)千葉県園芸協会農地部(電話043-2223-3011)までお問い合わせください。

※(公社)千葉県園芸協会は、千葉県から農地中間管理機構に指定されています。

